

東海連合支部 第130回山登り会 登山報告

日 時： 2020年10月24日（日）

行 先： 天狗棚・1200高地

標 高： 1240・1229m

登 山 口： 愛知県設楽町

累計標高差： 350m

歩行距離： 4.0km（全行動時間 約3.5時間）

参 加 者：（あいうえお順）池原さん、奥山（幸）さん、清水さん、鶴岡さん、茂木

山歩き会はコロナ騒ぎの影響で2月以降は自粛していたので8ヶ月ぶりである。又天狗棚を訪れるのは2016年以来2度目である。天狗棚の登山口は標高が1100mなので、夏には涼しくて登りやすいので前は8月に催行した。今回は紅葉が目当てである、集合場所は前回と同じ「道の駅アグリステーションなぐら」だ。

登山口の「面の木園地」はここから高原道路を車で15分ほど登る。10時10分登山開始、標高1100m。緩い傾斜の道は明るい原生林の中に入って行く、一応道はついているが適当に外れてフラフラ行くのも楽しい。200m位行くとベンチのある広場にでる、メインとなる道は広い尾根上に緩い登りで続いているが、右にやや下り気味に展望台方面として細道が派生している（10:18 1160m）。ここはまず展望台へ行く、模擬木の橋で涸れた沢を渡る、苔で滑りそうで緊張する。斜面に沿ってほぼ水平に続く道は落ち葉が積もり、隠れた木の根を踏んだら滑って谷側に落ちそうで気にするとちょっと気持ち悪い。



面の木園地



展望台にて

10:28 展望台と天狗棚を結ぶ道に合流する。ここを右方面に数分進むと展望台到着、（10:32 1170m）正面（北東方向）に茶臼山、すぐ右に鉄塔の立った萩太郎がある。ずっと右（南東方向）に愛知の名峰明神山の双耳峰が見える。この間に南アルプスや富士山も見えるのだが、今日は下の方が霞んでいて隠れてしまっている。下の方を見ると紅葉には少し早かったのか紅はポツポツ黄色が主体だ、今年は台風にもやられてないのでもう少し先なら見事なはずだ。

展望台の横を下ると道があるが、それは我々の登り口とは別のもう一つの登り口へ続く道だ。写真を撮るなどして10分位休憩後、Uターンして天狗棚方向へ戻る、先程合流して来た道を左に見て進むと急登に差し掛かる。いままでが緩かったのできつく感じ、10分程で登り切り水飲み休憩を取る（10:50 1210m）。再び緩い登り下りで10分位行くと丸く開けた広場になる、一見ただの広場のようだが回りより皿を伏せたような盛り上がりになっていてここが山頂である。天狗棚山頂との立て札が立っている（11:06 1240m）。昼飯には少し早いので先に進んだ「1200高地」までおあずけで、先に進む。

多くの客は夏なら避暑、春秋なら新緑や紅葉を楽しむピクニックのような登山で、ここから引き返す。それでも十分満足出来る山だが、実はこの先も 1200 高地までの約 2km は自然を感じながらゆったりと歩ける道が続くのだ。最初は少し下って平坦になる、暫くするとこの尾根道から派生する道が分岐し、角にオリエンテーリングの目印が立っている。この目印はオリエンテーリングの「コントロール」と呼ばれるもので通過点を示すもので例えば××コースの N 番目のポイントなら「OL-××-N」などと書かれているらしい。この「OL」が Office Lady と結びついて爺さん達は妙にはしゃいでいた。又この時 orienteering なら OR じゃないかななどと云う話もあり、気になったので後で調べたらドイツ語の Orienteering Lauf の略だと分かった。それはともかくとして書きたかったのは「OL」で皆が喜んだ様子が可笑しかった事だ。



1200 高地途中



1200 高地

そうこうしながら 20~30m 位の小ピークを 2つ3つ越えると、ちょっとした湿地に差し掛かる。湿地は長さにして 20m 程だ。そこを過ぎ、緩い登りに入るとすぐに右に派生する狭い急登に出会う (11:45 1190m)。ここの急登を登ると 1200 高地だが、取り付く前にまず一休憩する。池原さんは久しぶりの山行で、お疲れの様子でここで皆が 1200 高地から帰るのを待つこととなった。急登を 10 分程度頑張ると皿を伏せたような広場にてた。1200 高地の標識は無く、代わりに天狗の奥山と書かれた小さな標識がある (11:56 1230m)。1200 高地から引き返すとその間に池原さんは俳句を一句ひねっておられた。俳句の文言は覚えていないが、「隠れていた日差しが戻った時に木漏れ日が草木の影を生み出した」というような内容だった。なるほど俳人とは、何でもない刹那の情景を浮き彫りにする感性を持っているのだなと感心した。

ここからは往路を引き返すことになるが、昼時も過ぎたので帰りながら適地を探す。ゆったりした広場で各々適当な枯木などに腰を下ろして昼食を摂る (12:12 1170m)。昼食後の帰路ではいくつかの小ピークも行きよりきつく感じる、特に天狗棚山頂手前の登りは長く感じる。頂上に着いても一息つくだけでそのまま進む。展望台の方に戻る途中で往路から外れて右に下るのが面の木園地へのショートカットだ、大きなつづら折りを下るとやがて朝最初に展望台に分岐したベンチのある広場に出る。ここから数分下って出発点面の木園地に到着した。(13:31 1110m)



天狗棚山頂